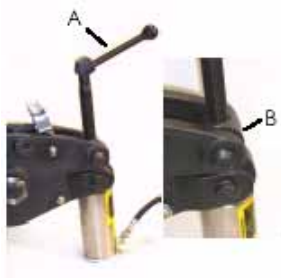


Wheeler-Rex 油圧式パイプカッタ 操作及び保守説明

1. 毎回切断する度に、上部トラニオン(B)が一番下に当たるまで調整スクリー(A)を回します。



2. チェーンを、切断したい位置まで、パイプの下にスライドさせます。



3. ハンドリングで、ジョーの隙間からチェーンを出来るだけ固く締め上げます。上部ジョー(3)の内側にある穴に、一番近いピンをはめ込みます。チェーンを少し緩めると、最も近いピンが上顎ジョー(D)の下穴にはまります。ピンが適切な穴にちゃんと入っていることを確認して下さい。



4. 調整スクリーをしめて、残った弛(たる)みをしめ取ります。



油圧ポンプのバルブ(E)を、時計回りに手締めでしめます。この時レンチなどの工具は使わないで下さい！

パイプがポンッと割れるだけの圧をかけて下さい。切断後、バルブを緩めてピストンを元の位置に戻して下さい。



< 重要事項 >

油圧ポンプ用オイルはウィラー純正品をご使用下さい。他社品ご使用の場合は、保証対象外となります。

カッター付属のポンプには、カッタとチェーンが破損しないよう過負荷(防止)バルブが装備されています。

電力ポンプが使われている場合は、過負荷(防止)バルブは下記の数値以下にセットして下さい。

P/#5590タイプ : 689 kg/cm² (9800 psi)

P/#3890タイプ : 422 kg/cm² (6000 psi)

注意 : 圧をかける前に、同梱しているビニールカバーをカッターにかぶせて下さい。装置に圧がかかっている時は、カッターヘッドやチェーンから約3m以内に近づかないで下さい。パイプの端からも離れていて下さい。

切断は状況によっては1回でうまく切れない場合もあります。そういった場合は圧を緩めてから、必要に応じてカッタを動かして、切断箇所を変えて下さい。調整スクリーを再度しめた後、ポンプを再操作して下さい。それでも切断が難しい場合は、同様の作業を2,3回繰り返してみてください。

カッタ刃、ピン、リンケージのバラ売りはしませんのでご注意下さい。

油圧式パイプカッター

重要情報及び注意書

- ・ 既設管を切断する場合は、パイプ表面のカッターチェーンが接触する部分から、廻りの余分な泥（汚れ）、垢や錆を取り除きます。こうすることで、カッター刃が固体のパイプと最も密接に当たるようになります。パイプ表面の汚れを取り除くには、ウィラー社製パイプクリーナーP / # 1300 か P / # 1350 が便利です。
- ・ 上部ジョーの締め付けボルトはいつもきつく絞めておいて下さい。このボルトが緩んだままカッターを操作すると、カッターに重大なダメージをおこすことになります。
- ・ どのようなときも、油圧装置にはブレーキオイルを使用しないで下さい。パッキングが修繕できないようなダメージを受けかねません。
- ・ ポンプには、少なくともオイルタンクの3 / 4の量のオイルを保って下さい。
- ・ 油圧装置の修理は、工場が提供している詳細仕様に従って作業が出来る資格ある担当者しかしてはいけません。
- ・ 修理のためにサービスセンターや当社工場へ装置一式を送られる場合は、運賃前払いをお願いします。
- ・ 修理に、当社指定でない部品を使用された場合は、製造者責任や保証の対象外となります。
- ・ 特定のサイズのパイプだけ切断される場合は、チェーンピンに目印をつけてお使い下さい。そうすることで、いつでも作業効果の高い運用が出来ます。
- ・ このカッターをご使用後は、毎回ピストンを動かしてストロークの一番上にしておいて下さい。そうすることでシリンダーにオイルが行き渡り、シリンダーに入った水分を取り除けます。カッターを水たまりの中や非常にぬかるんだ現場でご使用になられた場合は特にこの保守作業が重要です。装置にかかっている圧力を開放すると、ピストンは完全に閉じた位置に戻ります。必要であれば、手で押して閉じた位置にピストンを戻して下さい。

注意！！！！

カッターを設置している際は、切断するパイプの近くには立たないで下さい！

駆動時、カッターは最大圧になっているので、切断の際は、切断されたパイプがかなりの力を受けて割れて落ちます。